

教員養成系大学・学部での研修(PD)シリーズ 第7講

# これからの大学での 教員養成について考える —教職大学院を中心に—

愛知教育大学

中山 弘之

# はじめにー本講座の目的ー

- 大学における教員養成の今後の方向性のうち「教員の資質能力の高度化」に着目。
- その主軸を担う教職大学院の成果と課題について、事例を通して学ぶ。
- 教職大学院を中心に、これからの大学での教員養成について考える。

# はじめに 第7講の柱

はじめに

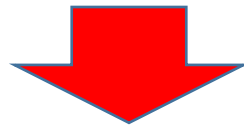
1. 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」と教職大学院
2. 教職大学院の概要と特色
3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動
4. 愛知教育大学教職大学院の教育活動(第1期)の成果・課題  
まとめにかえて

1. 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う  
教員の資質能力の向上について」と教職大学院

1. 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」と教職大学院

## 中央教育審議会答申（平成27年12月21日）の概要

- 社会の進歩や変化の加速
- 先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承をうまく図る必要性
- 子供、保護者の期待に応える「学び続ける教員」の育成
- 主体的・対話的で深い学び、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、チーム学校の実現に必要な力量の育成



「教員の養成・採用・研修の一体的改革」

1. 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」と教職大学院

## 教員養成に関わる主な提言

- 教員として最低限必要な資質能力の育成（教員としての職能成長は、養成段階だけではなく、教職生活全体を通じて行われる）、新たな教育課題への対応  
.....教職課程の内容の「精選・重点化」、「教科に関する科目」「教職に関する科目」の区分を撤廃など
- 「理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の育成」.....学校インターンシップ
- 「教員の主体的な学びを支える様々な取組み」の基盤.....教育委員会・大学等による「教員育成協議会」（仮称）
- 「教員の資質能力の高度化」に向けて.....教職大学院の「質的・量的充実」

1. 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」と教職大学院

## 教職大学院に関わる主な提言

- 大学院段階での教員養成の主軸へ
- 現職教員の再教育 + 学部新卒学生の実践力の育成
- 教育委員会との連携による管理職研修の開発・履修証明・科目等履修制度の整備

→全ての教員の大学院での学修、教員養成の大学院化も視野に

参考: 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」、平成27年12月21日。

これまでの教職大学院における  
教育活動の成果と課題  
に学ぶ必要性

## 2. 教職大学院の概要と特色



## 2. 教職大学院の概要と特色

# 教職大学院とは

- 学校教育の抱える課題の複雑・多様化の中、教員養成分野における大学院段階の高度な専門的職業能力を備えた人材の育成に向けて

### 【目的と機能】

- ① 学部段階での資質能力を修得した者の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成
- ② 現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダー(中核的中堅教員)の養成

参考:「教職大学院:文部科学省」([http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kyoushoku/kyoushoku.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kyoushoku/kyoushoku.htm))。

## 2. 教職大学院の概要と特色

# 教職大学院の特色

- 実務家教員と研究者教員から構成されるチームによる指導体制
- 現職教員学生と学部新卒学生が協働して学び合う学修形態
- 事例研究や討論を中心とした授業
- 実習を中心とした探究的な省察力を育成する体系的な教育課程（10単位以上）

参考：中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」、平成27年12月21日。

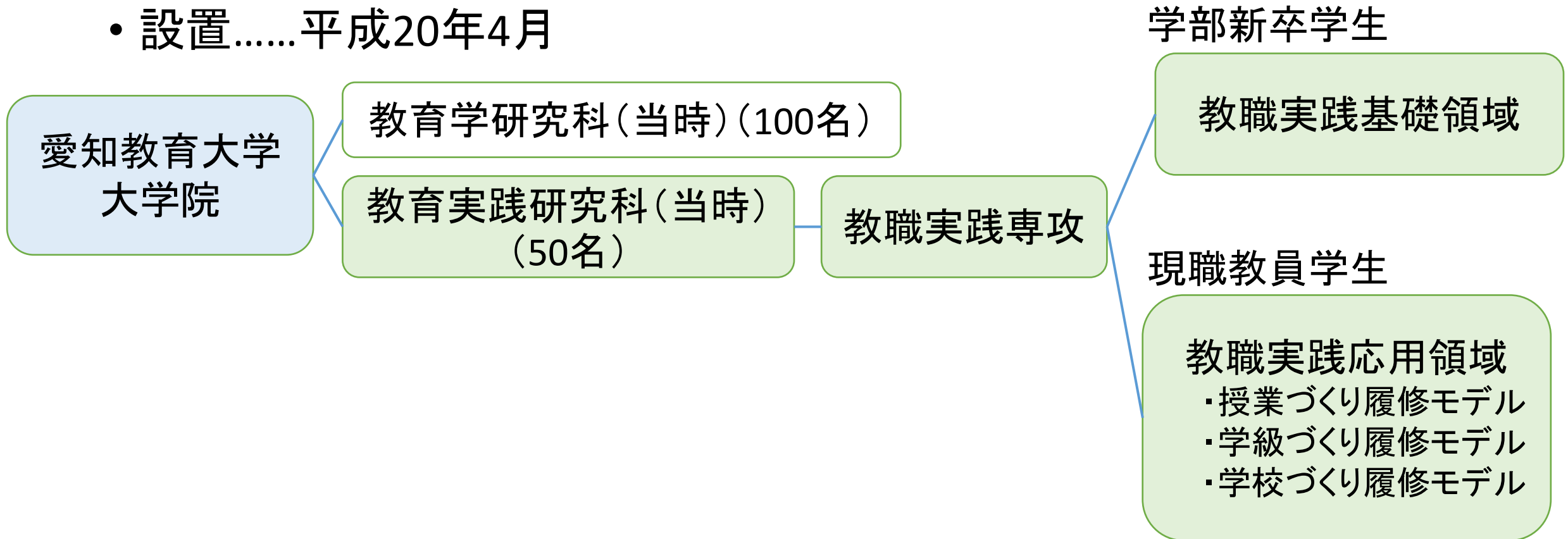
「理論と実践の融合」  
を基本に

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期) の教育活動

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動

# 愛知教育大学教職大学院(第1期)の概要

- 名称.....愛知教育大学大学院教育実践研究科
- 設置.....平成20年4月



### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動

## 愛知教育大学教職大学院(第1期)の特色

- 授業は原則 火曜・金曜日に開講
- 授業の特色.....チーム・ティーチング、学部新卒学生(基礎領域)と現職教員学生(応用領域)の共修、事例検討・討論・グループ活動を中心
- 月曜・木曜日の学校サポーター活動(学部新卒学生)
- 長期間にわたる実習

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動

## 愛知教育大学教職大学院(第1期)の授業について①

### 【授業づくりに関する授業の例】

- 概要.....研究者教員(1名)と実務家教員(4名)が担当。教材研究や授業の方法について理論的に学びながら、それを体得するための模擬授業を行う。
- 模擬授業の体制.....学部新卒学生と現職教員学生の両方が含まれたグループを5つ編成。5名の担当教員がそれぞれにつく。
- 学部新卒学生.....教員役を担当。授業づくりの力量を身に付ける。
- 現職教員学生.....学部新卒学生が模擬授業を準備するにあたっての助言・指導を担当。学校現場で若手教員に助言・指導する力量を身に付ける。

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動

## 愛知教育大学教職大学院(第1期)の授業について②

### 【学級経営に関する授業の中の一例】

- 概要.....掲示物などの教室環境も、学級経営に大きな意味を持つという考えに立って、教室環境のあり方について具体的に学ぶ。
- グループ編成.....学部新卒学生と現職教員学生の両方が含まれたグループを編成。
- 現職教員学生.....自身の勤務校における教室掲示の例など、教室環境をつくる上でどのような工夫をどのような意図でしているのかを、資料にまとめて持参。
- 現職教員が準備した資料にもとづいて、グループ討論を行う。

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動

# 学校サポーター活動

- 学部新卒学生が、1年の9月から2年の12月まで、週2回程度行う(月曜・木曜日)。
- 実習校(連携協力校)の児童生徒の実態や教育環境等について予備知識を得る。
- 学校のサポート活動を通して、教師としてのあらゆる仕事について理解する。
- 指導教員は、月1回程度の巡回指導、週1回のゼミ指導を通して、学校サポーター-実習-修了報告書完成に至るまでの実践研究をサポートする。



### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動 実習一覧(当時)

学校実習の種類, 単位数・期間

	実習の種類	単位	年次	期間
教職実践応用	他校種実習	1	1	週2日全日2週間
	特別課題実習(応用)	1	1	週2日全日2週間
	課題実践実習	6	2	1学期間程度
	メンター実習	2	2	2週間
	多様なフィールド実習	1	2	1週間
教職実践基礎	特別課題実習(基礎)	1	1	週2日全日2週間
	教師力向上実習Ⅰ	4	2	4週間
	教師力向上実習Ⅱ	4	2	4週間
	教師力向上実習Ⅲ	1	2	1週間
	多様なフィールド実習	1	2	1週間
	選択 特別課題実習(応用)	1	2	週2日全日2週間

『平成29年度  
大学院教育実践研究科(教職大院)学生  
募集要項』より。

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動 教師力向上実習・課題実践実習

#### 【教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ】.....学部新卒学生(基礎領域)

- 前期に4週間(実習Ⅰ)、後期に4週間(実習Ⅱ)。
- 教師のあらゆる仕事について理解。実習Ⅰでは学級経営・生徒指導、実習Ⅱでは教科指導を中心に学修。
- 教員は週1回程度巡回指導を行う。

#### 【課題実践実習】.....現職教員学生(応用領域)

- 1学期間程度。
- 現任校の課題解決のプランニング、実践による検証を行う。
- 教員は2週間に1回程度巡回指導を行う。

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動 学生の実践研究の例(現職教員学生)①

#### 【問題意識(現場の教育課題)】

- この学生(小学校6年生の担任教員でもある)は、できるだけ多くの児童に学級活動の計画づくりに参画してほしいとの願いで、計画案をつくるグループを輪番制にしてきた。
- しかし、現状の学級活動の時数では、計画グループの経験ができるのが年1回程度にとどまってしまう。
- どのようにして学級活動の計画づくりの技能向上を実感させ、学級活動の計画づくりへの実践意欲を高めるかが課題。

#### 【実践研究の主題】

- よりよい学級生活を主体的に築こうとする児童の育成

参考:早川智「よりよい学級生活を主体的に築こうとする児童の育成」『愛知教育大学教育実践研究科(教職大学院)修了報告論集』第8輯、平成29年。早川智「よりよい学級生活を主体的に築こうとする児童の育成」(平成28年度修了報告会資料、平成29年2月)。

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動 学生の実践研究の例(現職教員学生)②

#### 【実践研究の構想】

- 学級内のグループごとに学級活動の計画案をつくる。
- すべての児童が計画づくりに関わり経験をつむ中で、計画づくりの技能向上を実感できるように。
- 繰り返し計画づくりの成果を振り返る中で、達成感を感じ、計画づくりへの実践意欲を高めることができるように。

参考: 早川智「よりよい学級生活を主体的に築こうとする児童の育成」『愛知教育大学教育実践研究科(教職大学院)修了報告論集』第8輯、平成29年。早川智「よりよい学級生活を主体的に築こうとする児童の育成」(平成28年度修了報告会資料、平成29年2月)。

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動 学生の実践研究の例(現職教員学生)③

#### 【手立て(抜粋)】

- 林義樹氏の参画教育の理論を参考にしながら、手立てについて検討。
- その結果、ボード・ディスカッションによる計画案づくり、学級と個人の両方の変容に気づける振り返り活動などを手立てとして考案。
- ボード・ディスカッションによる計画案づくり.....小グループでホワイトボードにアイデアを書き込み、話し合いながら計画案づくりを行う。そのことで、自分の意見を出し合い、比べ合いながら、計画づくりのポイントを学び、技能向上を実感できるように。
- 振り返り活動.....自分の活動に目を向ける自己評価、計画グループ活動の様子に目を向ける相互評価、自分や学級全体の様子に目を向ける相互評価を行うことを通して、学級と個人の両方の変容に気づけるようにし、達成感を感じ、計画づくりへの実践意欲を高めることができるように。

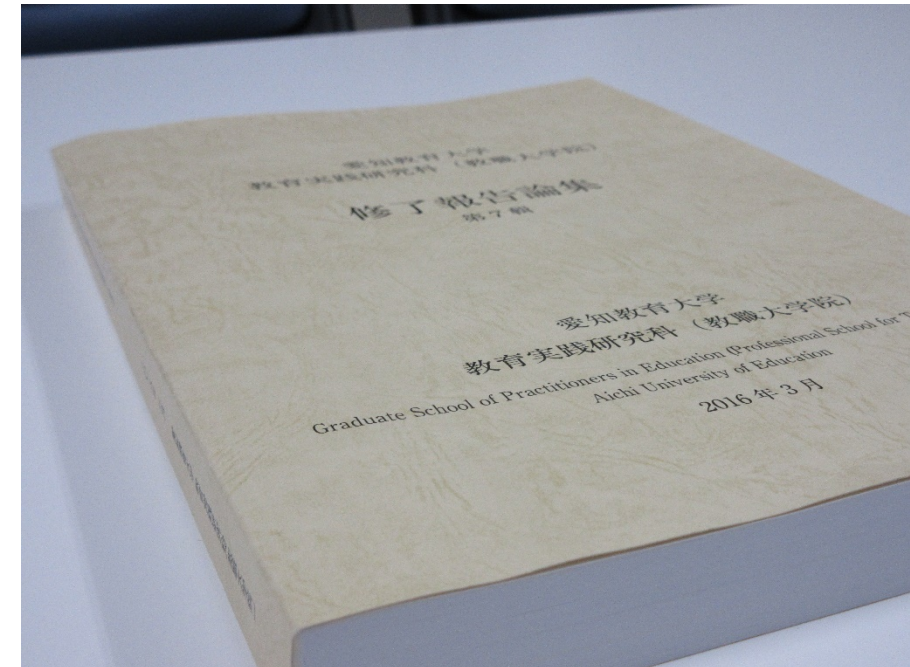
参考:早川智「よりよい学級生活を主体的に築こうとする児童の育成」『愛知教育大学教育実践研究科(教職大学院)修了報告論集』第8輯、平成29年。早川智「よりよい学級生活を主体的に築こうとする児童の育成」(平成28年度修了報告会資料、平成29年2月)。

### 3. 愛知教育大学教職大学院(第1期)の教育活動 修了報告書

- 実習で行った実践研究をもとに、その成果を文章化。
- 横2段組、1段24文字×50行、10ページ以内。

#### 【題目例】

- 自尊感情を高める保健体育科授業づくり  
— 様々な視覚化を活用した学び合いを通して —
- よりよい生活や人間関係を築く子どもの育成  
— 「学級目標」を活用し、共同体感覚を高める実践を通して —
- 外国人生徒の支援体制構築に関する研究  
— 共生的学校マネジメントの視点から —



## 4. 愛知教育大学教職大学院(第1期) の教育活動の成果・課題

## 4. 愛知教育大学教職大学院の教育活動(第1期)の成果・課題 学生・教員の声／授業

### 【成果】

- 理論的部分と具体的な指導方法の両方を学ぶことができる。(現職教員学生)
- 事例研究や討論から多くの人の考え方を知ることによって、自分自身の手立てを増やすことができる。(学部新卒学生)

### 【課題】

- 前期から研究に関する授業があれば、もっと早くから準備できる。(現職教員学生)
- 数は少ないものの、理論的・学問的な学びを志向する学生もおり、授業のねらいの設定に迷うこともある。(教員)



## 4. 愛知教育大学教職大学院の教育活動(第1期)の成果・課題 学生・教員の声／学校サポーター活動

### 【成果】

- 長期にわたって学校現場と関わることができるので、学校教育の流れ、生徒の成長を肌で感じることができる。学部の実習よりも、先生方と深く関われる。学年会、職員会議、反省会などに参加できたことも大きな学びだった。(学部新卒学生)
- 理論的な考え方と実践的な考え方を行き来させる場として大変有意義に感じる。(学部新卒学生)

### 【課題】

- 週2回あるので、研究や勉強の時間を確保することが難しい。(学部新卒学生)
- 学生の負担が大きい。とは言え、回数を減らすと、学校との関わりが薄くなってしまう。(教員)

## 4. 愛知教育大学教職大学院の教育活動(第1期)の成果・課題 学生・教員の声／実習

### 【成果】

- 教師力向上実習 I・II では、1ヶ月同じ学級で実習を行うことで、学校サポーター活動以上に子どもたちとの関係が深まった。(学部新卒学生)
- 実習中に単元を1つ、2ついただけだったので、授業づくりに対して自信をもつことができた。(学部新卒学生)

### 【課題】

- 実習の単位数が多いため、消化不良を起こしている学生が多いと感じる。(教員)

## 4. 愛知教育大学教職大学院の教育活動(第1期)の成果・課題 学生・教員の声／修了報告書

### 【成果】

- 修了報告に向けて、1年次から実践することで、研究を深めることができた。また、研究の方向性についてきめ細かい指導をしていただいたので、安心して実践を進めることができた。(現職教員学生)
- 実践するだけでなく、しっかりと検証できるので、学んだことが実際に現場に生かせるのかどうかを知ることができる。(学部新卒学生)

### 【課題】

- 主題の設定に関して、現場の課題と大学院にふさわしい新しい視点をどうすりあわせるかが課題だと考える。(現職教員学生)
- 学生本人の資質向上にとどまることなく、自治体や学校の教育に還元できる研究をどう進めるかについて、さらに工夫したい。(教員)

# 第7講 まとめにかえて

【これからの教員養成について考える上での課題－教職大学院を中心に－】

【「理論と実践の融合」の深化】

実践的な学びと理論的・研究的な学びをどう両立させるか？

時間的な側面から

内容的な側面から

「教職大学院の研究者教員について、学術研究のみに偏らないよう、実践研究論文や、実務経験、学校現場経験を求めるとともに、実務家教員についても、実践のみに偏らないよう、実践研究論文等をまとめられる程度の研究能力を求めること」(国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書 平成29年8月29日)

# 参考文献・資料

- 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」、平成27年12月21日。
- 「教職大学院：文部科学省」、  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kyoushoku/kyoushoku.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kyoushoku/kyoushoku.htm) (最終閲覧日 令和3年11月14日)。
- 早川智「よりよい学級生活を主体的に築こうとする児童の育成」『愛知教育大学教育実践研究科(教職大学院)修了報告論集』第8輯、平成29年。
- 国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて—国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書—」、平成29年8月29日。